

街暮らし



～東京都からの1ターン

酒井由美さんへの

インタビュー

○職業：子育て応援プロジェクト

☆パイン 代表

○家族構成：夫・子ども1人

○移住歴：6年

○お気に入りスポット：御城番屋敷

「民間のアイデアで松阪市を盛り上げたい」と語る酒井 由美さんは、東日本大震災の体験と同時期に、夫が「地域に密着した仕事をしたい」と転職を考え始めたことがきっかけで移住を考え始めた。移住の候補地を探していた時、たまたま松阪市に訪れ、街の空気が肌に合っていたことや、御城番屋敷のオーナーさんと話した際に、その話の魅力を感じたことで、一念発起し松阪市への移住を決意。

そんな由美さんに移住して困ったことを聞いてみると、「最初は物があまりすぎる東京になれていたため不安でしたが、そのうち買い物にも慣れました。今では東京なら値段の高い地元商品なども、こちらでは安く買えるので地産地消コーナーなどで買い物を楽しんでいる」と。

移住してすぐに、長女が生まれたことが、近所に親戚や相談できる友達がいなかったため産後に苦労したようだ。「これではいけない」と思い、松阪市のイベントに参加し同じ悩みを持つ人と出会え、心が落ち着いていた。しかし、子育てに関するイベントが少なかつた経験から、子育てを応援する目的で市民活動団体『子育て応援プロジェクト』

『民間のアイデアで松阪を盛り上げたい』

ト☆パイン』を立ち上げた。いろんな人に参加してもらいたかったので、市民活動団体にした。そのかいてもあって「市民活動団体を立ち上げてからは、同じ境遇の友達と相談しながら、子育てができる環境になった」と語る。現在は、四人のサポートメンバーが手伝ってくれている。サポートメンバーは、子育て中もしくは子育ての終わったお母さん達だ。今後は、「新しいことをやりたい」と思っている人に活動のノウハウを伝えて、応援の輪を広げていきたい。困っているお母さんたちの窓口になって、そこから行政などの相談窓口につなげていき、子育てに困っている人を皆で支え合う形で地域に関わり、松阪市の人に恩返しをしたい。市民活動に積極的に関わってくれる行政の方もいる」と笑顔でこれからのことを話された。

また、あったらいいなと思うものについては、「子育て世代のために、「みえこどもの城」みたいな大きな児童館が中心街に欲しい。また、東

京では身近に若い人向けのビジネスセミナーやワークショップ等の知識や情報を仕入れる場があるが、松阪市はそのような機会が乏しい。でも、今は観光やまちづくりに力を入れていっているので、SNSなどのツールを活用し住民や観光客にむけた情報発信の場を増やしたほうが良い」という。

最後に移住を検討する方へ「まず街を歩いたり住民の方とお話しして下さい。繋がる人が増える」と松阪市の楽しみ方がわかってくると思いますよ」やはり、街の人と話して積極的に繋がりを持つことが大切なようだ。



御城番屋敷

